

学校教育目標		意欲的に学び、共に伸びあう、心豊かな子供の育成		重点目標	話を聴きあえる子供の育成～話を聴きあおう～			
評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画
重点目標	目標達成のための方策 (取組指標)	成果指標	評価	結果 (成果○と課題△)		評価	コメント	次年度における改善策
重点目標	【学力アップ部】 学力向上に向けた学び方の定着	①構造的な板書を心がけ、文字・図・式等で自他の考えをかき、思考過程を可視化させ、対話的で深い学びを実現する。	①算数科において、ノートに自分の考えや友達の考えを文字・図・式等にかいている子供 (80% : 教師の見とり)	4	○算数科において式だけでなく自分の考えや友達の考えをノートにかいている子供が増えた。	A	・自己評価は適切である。 ・今後も丁寧な指導、学習低位の子供に配慮した指導を望む。 ・学力向上に向け取組を焦点化し全学年で実践した成果が実りつつある。今後も定着を図ってほしい。 ・子供達の授業に向かう姿勢や生き生きとした姿に感動した。	・活動のねらいを明確にしたペア学習・グループ学習のあり方を明らかにし、主体的で対話的な学びを全学年で実践する。 ・成績CD層の児童一人一人の改善課題を見取り、学力アップ非常勤講師を活用して少人数学習を継続・推進する。
		②学級の単元テストの目標点設定とその結果の個別の分析による振り返りを徹底し個に応じた指導に生かす。	②単元テストを見直し、間違いを正して達成感を味わう子供 (80% : 教師の見取り)	3	○振り返りの強化週間の実施と過去問に挑戦する期間で全員が間違いを正して達成感を味わった。	A		
		③「大切にしたい学び方」による学習規律の指導を徹底する。	③「大切にしたい学び方」各項目達成率 (85% : 教師の見取り)	3	○「大切にしたい学び方」の指導により、静かな教室環境が整ってきた。	A		
	に 関 関 す る 評 価	【豊かな心部】 ・生徒指導四原則で支え合う学級集団づくり	④相手の存在を認め、互いの自己存在感につながる挨拶を身に付けさせる。	④先生・友達・地域の方に挨拶する子供 (教師の見取り 80%以上)	3	○子供の言葉が丁寧になった。地域の方からも挨拶や声かけを褒めていただくことが増えた。	A	・自己評価は適切である。 ・大きな声での挨拶が気持ちよい。 ・低学年ほど見守り隊への声掛けが少なく感じた。 ・一緒に外遊びをするなど教師と子供達の関係性が良好だと感じた。
⑤相手の話を傾聴し、共感的な人間関係を育成して、安全・安心な風土をつくる。			⑤相手の話を共感的に聴く子供 (80% : 教師の見取り)	3	○全校で共感的に聴く姿勢が高まり対話で解決する態度が育った。	A		
⑥自分や学級・学校の課題に気付かせ、解決のための自己決定の場をつくる。			⑥課題解決のための方策を考え、表現する子供 (80% : 教師の見取り)	4	○子供に傾聴し寄り添う指導が定着した結果、課題解決方法を自ら考え表現する児童が増えた。	A		
る 評 価	【体力アップ部】 楽しみながら体を動かす習慣をつけ、友達と学び高め合う	⑦実行委員を中心に、朝の体力作りの活動を行い、外遊びを奨励する。	⑦朝の体力づくりに参加する子供 (85%以上 : 教師の見取り)	3	○学年や男女を問わず、外遊びを好んで行う子供が増えた。	A	・自己評価は適切である。 ・高学年女子も積極的に外遊びに参加しているのが良い。 ・スポコン広場の活用や明治小独自の取組等、子供達が進んで運動する機会がありとても良い。	・子供が「楽しみながら」進んで体力を高める活動になるよう外遊びを推奨し、教師も一緒に遊ぶ活動を継続する。 ・ねらいを明確にした体育科学習を継続・推進する。
		⑧体育の学習のねらいを明確にし、運動の楽しさを味わえる授業を行う。	⑧運動が嫌いな子供 (10%以下 : 児童質問紙)	3	○体育科学習のねらいを明確にし、発達段階に応じた授業ができています。	A		
		⑨行事や授業で目標を立て、友達と協力して達成に向け取り組む活動を仕組む。	⑨目標を持ち、友達と励まし合って取り組む子供 (80% : 教師の見取り)	3	○スポコン広場の参加を効果的に体力アップにつながることができた。	A		
い じ め 防 止	【特色ある教育活動】 互いを認め合う態度を育てる	⑩英語活動・外国語活動・外国語科で文字に慣れ親しみ、主体的にコミュニケーションを図るよう、伝えたい思いを高めるプラス1の工夫と行う。	⑩英語の文字に慣れ親しむ子供 (70% : 明治イングリッシュチャレンジ) 英語でのコミュニケーションの楽しさを味わっている子供 (85%以上 : 教師の見取り)	3	○コミュニケーション能力を見える化し、子供の自信と意欲につなげる本校独自取組「明治イングリッシュチャレンジ」の実施を実現した。	A	・自己評価は適切である。 ・明治小の英語は引き続き子供達の素直さや活発さが生かされ楽しく学び、レベルアップしている。	・明治小の子供の強みを生かし次年度も「明治イングリッシュチャレンジ」を継続・改善し定着を図る。
		ア学校生活アンケートやいじめチェックリスト、保護者アンケート等を活用して、いじめの未然防止と早期発見に努める。 イいじめの未然防止と早期発見・早期対応を実現するための児童への指導の充実と家庭・地域への啓発強化に努める。	アいじめ発生後の組織的対応 (SC・SSW・SS・他関係機関との共有) の実施 (100% : いじめ防止対策委員会) イ (1) いじめの未然防止のための学習指導の充実 (100% : 全学年年間2回) (2) 家庭・地域への啓発強化 (前年度比+1回 : 保護者・地域向けいじめ・不登校関連研修)	3 4	○校内いじめ防止対策委員会にSC・SSW・SSがいずれも参加した。今年度毎月の児童理解会議にSSが参加し組織強化ができた。 ○全学年いじめ予防・防止学習を2学期と3学期に実施し、児童のいじめに対する理解が深まった。 ○関係機関と連携し、保護者・地域向けの研修を新設した。	A A		
不 登 校 防 止	不登校児童の学校復帰と未然防止	ウ不登校傾向児童の予防・解消を目指す組織的な取組 (マンツーマン対応)	ウ病気、家事都合以外の不登校傾向の児童の登校改善 (-30% : 不登校児童数前年度比)	3	△マンツーマン対応を継続し改善・復帰した児童もいたが、不登校児童の解消には至っていない。	A	・自己評価は適切である。 ・不登校改善のみが目標となると子供が抱えている思いや困りとのズレが生じ状況を悪化させることがある。個々の環境背景を丁寧に見立てたアプローチが大切である。	・SSW児童理解会議参加での情報共有をもとに連携を強化し家庭訪問等で活用を推進する。 ・「保護者のいじめ・不登校防止教室」をPTA行事と組み合わせて継続・推進する。
		エ訪問指導員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等との連携した取組	エ全ての欠席・遅刻しがちな子に対して、訪問指導員、SC、SSWと連携でサポートする。(100% : 該当児童サポート)	3	○さらにSC、SSWと連携し児童の「SOSの出し方教室」「保護者のいじめ・不登校防止教室」を新設、実施した。	A		
働 き 方 改 革	意識改革と業務改善	オ定時退校日 (水曜日) における職員の定時退校の徹底	オ定時で退校する職員 (実施率90%以上)	2	△改善傾向にあるが未達成。引き続き定時退校90%を目指す。	A	・自己評価は適切である。 ・子供達にとって、元気で生き生きと楽しそうにしている目の前の先生が憧れやモデルになる。目標達成に向けて継続を望む。	・月行事予定表をもとに全職員のもの2か月先までの業務を把握し、週案を活用して見通しを持たせ職員の業務量の平均化を図る。
		カ各主任による計画的(事前)提案と共通理解する時間の確保とICT活用により業務の効率化を図る	カ各分掌担当の会議議案の計画的提案 (実施率90%以上)	3	○各会議の議題の見通しが立っており、各会議の事前の提案のスピード化が進んだ。	A		

◇ 評価について
 ・【自己評価】 4 : 目標達成 (90%以上) 3 : ほぼ達成 (70%~90%) 2 : もう少し (60%~70%) 1 : できていない (60%未満)
 ・【学校関係者評価】 A : 自己評価は適切である B : 自己評価は上方修正すべきである C : 自己評価は下方修正すべきである